
悠然と偶然は起きる

メネ@分家

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悠然と偶然は起きる

【Nコード】

N89820

【作者名】

メネ@分家

【あらすじ】

とある男女の自己紹介。

男にとってはとても嬉しいもので、
女にとってはとても悲しいもので。

（前書き）

こんなのが第一発目でいいんでしょうか、と少々不安（

微妙にグロかもかもしれませんが、個人的にこれはグロじゃなくて普通です。絶対に普通です。大事なことなのでry
不快に思われましたら申し訳ございません。

あとこれ前置きとかまったくないんで理解できないかもです。文学じゃない気も><
分かる人には分かる……いや分からないかも……。

感想・批評・批判があればお願いしますっ。

「初めまして。私の名前は、」

彼女がその後に紡いだ言葉は、おそらく一生忘れないだろう。いや違う、今までも覚えていた。そしてこれからも、覚え続けるに違いない。僕はそのために、今日までを歩いてきたのだから。

小学生の頃を描いた風景画はやけに殺風景だった。

中学生の頃に描いた静物画はいやに残酷であった。

高校生の頃に描いた人物画はすぐに破いてしまう。

もし僕が死ぬまでに彼女を見つけられていなかったなら、怨霊になつて彼女を祟っていたかもしれない。あるいは、全財産を使って彼女を探させたかもしれない。

けれどそんな心配はもういい。僕は、彼女を見つけたのだ。その事実、僕をなによりも喜ばせた。

できるだけ感情が表に出ないようにして、僕は言葉を紡いだ。

「お久しぶり。僕の名前は、」

彼女の顔から笑顔が消え去り、恐怖と驚愕と焦りが入り混じった表情が浮かぶ。

口を大きく開いて叫ぼうとする前に、僕は彼女の喉を抑えた。そしてそのまま力を込めて、「……あッ、……う……………」彼女が漏らした呻き声に、妙な懐かしさを感じる。

初めは僕の手を放そうと必死だった手も、段々と力が弱まっていた。彼女の目尻からは透明な液体がにじみ出ていた。……ああ、ちゃんと出るのか、涙。てつきり無いものだと思っていたけれど。

喉を締め上げる手の力を強める。もっと、もっと、骨が折れるく

らいに、もつと。血管が破裂するぐらいに、もつと……。今や彼女の顔は青紫色に近く、眼球も飛び出しそうになっていた。開いたままの口は、酸素を吸いたいのだろうか。それとも、二酸化炭素を吐き出したいのか。

そんな彼女を見ても僕が何とも思わないのは、どうしてだろう。風に揺れる蠟燭の炎は、自分がなぜ揺れるか分かっているのかな？くだらない事を考える中でも、時は流れていく。僕は時が早く流れてほしいと願う。けれど彼女は、たぶん遅く流れてほしいと願っている。それでも時は流れる。ただ一定に、平等に。

「……………カ……………あ」

ビクリと大きく身体が跳ねて、それから彼女は動かなくなった。手を放すと、思ったよりもあっけなく崩れ落ちる。受け身を全くとらなかった為に思いきり頭を打ち、赤いどろどろとしたものが石畳に溢れた。

動かない彼女を蹴り飛ばして、僕は軽く笑みを零した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8982o/>

悠然と偶然は起きる

2010年11月14日02時22分発行